

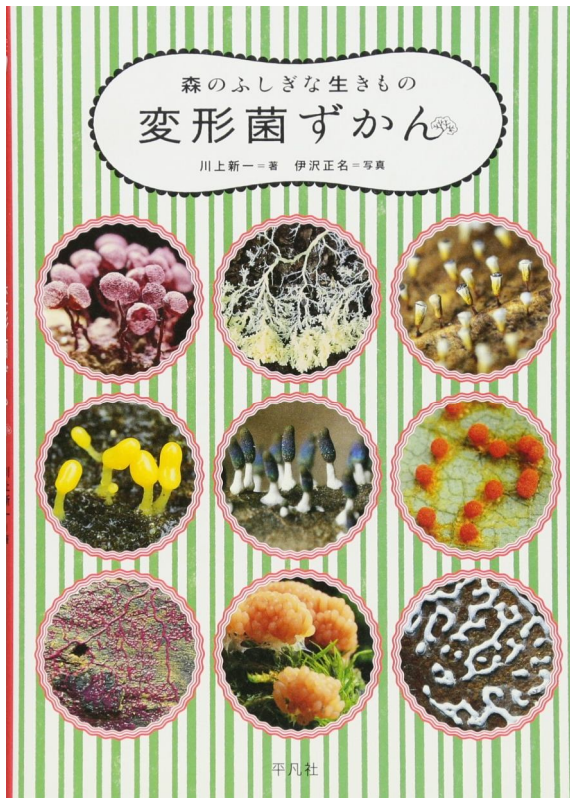
「変形菌の世界 (3)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

変形菌を知る為の本はたくさん出版されている。私も何冊か持っているが、その名もズバリの「変形菌ずかん」(平凡社)が一番わかりやすい。



この本も、キノコ写真で有名は伊沢正名氏が撮影を担当していて、使われている写真が実に美しい。この本を読んだら、実際に野外で変形菌を探してみようと誰もが思うだろう。



変形菌の研究者は世界中にいるが、実験によく使われているのは「モジホコリ」*Physarum polycephalum*

という種類だ。変形体は黄色で、特に珍しい種類ではない。私も森の中で簡単に見つけることができた。モジホコリの変形体は、樹枝状に展開する。研究では、エサ(オートミールが多い)を与えて、どのようなネットワークを形成するのかを研究する。迷路のような道を与えても、まるで知能のある生き物のように、最短経路を見つけ出すという。



写真はモジホコリと同じ「モジホコリ科」に属する「ススホコリ」*Fuligo septica* という変形菌だ。山荘裏庭の朽ちた切り株で見つけた。変形菌は、子実体で同定するのが普通で、素人が変形体で種名を決定するのは難しい。しかし、ススホコリは見分けがつく。



切り株の内部に菌体があるうちは、その存在には気づかない。しかし、いざ表面に出てきて移動を始めると、翌日には子実体を形成することが多い。1973年に北アメリカでススホコリが大発生し、住民はパニック、UMA(未確認生物)と大騒ぎになった。人騒がせな事件を起こした、有名な変形菌である。